

第  
19  
回

# 日本癌病態治療研究会の 開催にあたって

第19回 日本癌病態治療研究会当番世話人  
慶應義塾大学医学部消化器内科 教授

日比 紀文



このたび、第19回日本癌病態治療研究会を開催させていただくことになり、大変光栄に存じております。

いま時代は、がん治療の均てん化とグローバルスタンダード化を求め、臨床医はエビデンスを重視した標準治療の確立のため、大規模臨床試験に心血を注いでおります。また、実地の臨床現場においてはエビデンスにより期待されるべき結果が必ずしも得られるとは限らず、予期されない反応や個人の状況に応じて、常に流動的な対応を求められております。すなわち、治療の個別化・テーラーメイド化の流れは、実地診療における多様性を基盤として、その場における創意工夫の中から発展してきていると考えられます。このような癌診療の現況を踏まえ、第19回研究会の主題は、「標準治療から低侵襲治療へ：分子病態生理から見たアプローチ」といたしました。最先端技術を用いた低侵襲治療の開発は、標準治療の確立・発展と並行して数多くの施設・研究者により進められてきております。また、そのための分子病態生理の理解のためには、臨床と基礎研究の両面から病態をとらえることが不可欠であります。ともすれば大規模臨床試験に発展することは一見容易ではないと思われるような研究の中にも、特筆すべき重要な事実を示唆している優れたものが数多く存在するものと思われれます。このような研究を広く取り上げ、標準治療との適合性を検討することを目的とし、本年度研究会を企画いたしました。

シンポジウムとして「幹細胞研究の癌治療戦略への応用」、および「癌免疫治療の最前線」を企画し、それぞれ第一線の研究者をお招きし、最新のトピックをお話しいただく予定です。また、特別講演として、横浜市立大学大学院臓器再生医学の谷口英樹教授に癌幹細胞に関するお話をしていただきます。ランチオンセミナーでは、慶應義塾大学消化器外科の北川雄光教授に、リンパ節マッピングを応用した個別化治療の現状と展望に関するお話を、さらに、愛知県がんセンター中央病院薬物療法部の室圭先生に胃癌および大腸癌における標準治療と今後の展望をお話しいただきます。さらに教育講演として、杏林大学腫瘍内科の古瀬純司教授に肝・胆・膵領域における化学療法を講演していただく予定です。そのほかにも、ワークショップ3項目、一般演題、症例報告を取り上げ、非常に興味深い演題を多数ご応募いただきましたので、じっくりと議論できるよう時間を確保してあります。会員の皆様方の積極的なご参加とご討論で実りのある研究会になるものと確信しております。多数の皆様のご出席を心からお待ち申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。